

令和6年度（第73回）「神奈川文化賞」及び 「神奈川文化賞未来賞」の受賞者プロフィール

神奈川文化賞

はまぐち りゅうすけ

濱口 竜介 (45歳)

●芸術●

映画監督として4冠獲得の
偉業を果たすとともに
映画館への支援に尽力



日本を代表する映画監督、脚本家。

2015年に第68回ロカルノ国際映画祭国際コンペ部門で「ハッピーアワー」が主要賞を受賞する等、デビュー直後から国内外の映画祭で着実に実績を積み重ねてきた。2021年「偶然と想像」が第71回ベルリン国際映画祭のコンペティション部門で最高賞次点にあたる審査員大賞銀熊賞を受賞。同年「ドライブ・マイ・カー」が第74回カンヌ国際映画祭の長編コンペティション部門で、日本作品初の脚本賞をはじめ、国際映画批評家連盟賞、AFCAE賞、エキュメニカル審査員賞を受賞し、映画監督として国際的な評価を確立。

2022年に第94回アカデミー賞で「ドライブ・マイ・カー」が作品賞、監督賞、脚色賞、国際長編映画賞の4部門にノミネート、国際長編映画賞を受賞した。2023年、第80回ヴェネツィア国際映画祭で「悪は存在しない」が国際映画批評家連盟賞、銀獅子賞を受賞。日本人として黒沢明監督以来2人目のアメリカのアカデミー賞と世界三大映画祭全てで受賞を果たした監督となった。

また、新型コロナウイルス感染拡大の影響で経営危機に陥る小規模映画館を支援するため、2020年に「ミニシアター・エイド基金」を立ち上げ、全国のミニシアター救済に尽力した。

[非公表]

神奈川文化賞

やまもと りけん

山本 理顕 (79歳)

●芸術●

建築を通じて地域社会に貢献



©Tom Welsh for The Hyatt Foundation/
Pritzker Architecture Prize

生まれ育った横浜市神奈川区に「山本理顕設計工場」を構え、ここを舞台に「公立はこだて未来大学」「名古屋造形大学」「東雲キャナルコート CODAN」等のほか、韓国の集合住宅やスイスの空港の複合施設など、国内外で多くの公共建築や集合住宅も手がけ、その業績は高く評価される場所である。本県においても「横須賀美術館」「横浜市立子安小学校」、横浜の老舗ジャズ喫茶「ちぐさ」の歴史などを伝える「ジャズミュージアムちぐさ」等を設計し、文化の発展に尽力している。

横須賀美術館の建物に関しては、2007年に第52回神奈川県建築コンクール最優秀賞、2008年に第49回BCS（建築業協会）賞、2009年度の日本建築家協会賞を受賞。

また、これらの業績をたたえ、2024年3月には、建築界のノーベル賞ともいわれる権威あるプリツカー賞の日本人9人目の受賞者となり、「地域社会の活性化に貢献した」と国際的に評された。同年に文化庁長官表彰(国際芸術部門)も受賞。

このほか氏は、教育活動にも取り組み、2007年からは横浜国立大学院教授を務め、現在は同大学と日本大学の名誉教授、名誉博士であるほか、工学院大学、名古屋造形大学などでも教壇に立ち、後進の育成に尽力した。2024年より神奈川大学客員教授。

[横浜市在住]

神奈川県文化賞

きねや きょうせん
杵屋 響泉 (109歳)

●無形文化財●
長唄三味線演奏家として
文化の振興に貢献



400年近い歴史を持つ長唄宗家の家系に、五代目杵屋勘五郎の一人娘として生まれ、幼少期から長唄の手ほどきを受けた。以後、長唄三味線の演奏家、師匠として長年にわたり活躍し、市民会館等での演奏会や小学生へのワークショップを開き、一般市民等に長唄を広める。

2013年3月には白寿を祝い、東京・紀尾井ホールで記念演奏会「百乃壽（もものことぶき）」を開催する等、市内外で古典邦楽の普及に尽力された。

2019年には、105歳で『一〇五 娘がつなぐ五世勘五郎の長唄世界』でCDデビューを果たし、父・杵屋勘五郎の芸を広く伝える活動を精力的に続けている。

現在は、現役最高齢109歳の長唄三味線演奏者であり、「響泉会」「響の会」を主宰。氏及び氏の門弟子が長唄を披露しており、多くの方々に長唄を通じて古典邦楽の素晴らしさを伝えている。

2014年 小田原市より小田原市民功労賞表彰。

2017年 文部科学省より重要無形文化財長唄保持者に認定。

2019年 文化庁長官表彰。

[非公表]

神奈川県文化賞

みやさか つとむ

宮坂 力 (71歳)

●科学技術●

世界に先駆けてペロブスカイト

太陽電池を発明し

科学技術の発展に貢献



企業に研究者として勤務した後、2001年から桐蔭横浜大学・大学院の教授を務める。薄くて軽く、曲がる特性が注目されているペロブスカイト太陽電池の生みの親で、これは桐蔭横浜大学を研究拠点に開発された。ペロブスカイト太陽電池は次世代太陽電池の本命として世界が注目している。

2004年、大学発ベンチャーとして「ペクセル・テクノロジーズ」を創業。研究室で手がけていた技術と、若手研究者が研究していた物質「ペロブスカイト」を合わせることで新たな種類の太陽電池に使えることを発見。2006年からペロブスカイト電池の研究・開発に取り組む。当初は注目度が高くなかったものの、その後、海外に送り出した大学院生が英国人研究者と共同研究者となったことをきっかけに、英国でも研究が進展。低かった発電効率が上がったことから脚光を浴び、現在は世界で研究が行われている。

自治体・企業と協力し、横浜市内の駅でペロブスカイト太陽電池の性能を確認する実証実験が行われるなど地域と連携した取り組みも行われている。

学士院賞、朝日賞、クラリベイト・アナリティクス（旧トムソン・ロイター）引用栄誉賞、英国 Rank Prize 2022 など、国内外で多数の賞を受賞している。

[東京都在住]

神奈川県文化賞未来賞

きつわ みゆ
橘和 美優 (23歳)

●芸術●

ヴァイオリニストとして活躍



© Ayane Shindo

ジュニア時代から積極的にコンクールに参加し、研鑽を積んできた。東京音楽大学大学院1年に在学中の2023年11月、初めて挑戦した海外でのコンクール「ロン・ティボー国際音楽コンクール(バイオリン部門)」で5位入賞を果たし、注目を集めた。

伸びやかで艶のある音色は、2024年3月に東京・紀尾井ホールで行ったガラコンサートでも聴衆を魅了した。同コンクールで注目されたことで、さまざまな演奏会に出演の機会が増え、「弾きたかった曲に挑戦できてうれしい」と喜ぶ。今後さまざまなオーケストラとの共演が見込まれ、県内はもとより広く活躍が期待される。使用楽器は宗次コレクションから貸与されたストラディバリウス(1697年製)。

- 2016年 第2回ツィゴイネルワイゼンバイオリンコンクール優勝
- 2017年 第2回若い音楽家のためのモーツァルト国際音楽コンクール第2位
- 2018年 かながわ音楽コンクール社長賞・高校生の部最優秀
- 2020年 第89回日本音楽コンクール入選
- 2021年 第19回東京音楽コンクール第2位と聴衆賞
- 2022年 第8回仙台国際音楽コンクール第5位
- 2023年 第9回宗次エンジェルバイオリンコンクール第1位 など受賞多数。

[横浜市在住]

神奈川文化賞未来賞

ふるかわ ことね

古川 琴音 (28歳)

●芸能●

俳優として活躍



4歳からバレエとピアノを始め、発表会などで舞台に立つ楽しさを知る。バレエに変わる何かを探していた時、演劇に興味を持ち、第1期生として入学した中学校に演劇部がなかったことから、演劇部を立ち上げた。大学まで演劇を続け、2018年に沖縄市観光PR動画「チムドンドンコザ」で俳優デビューした。大森歩監督の短編映画「春」で初主演を務め、2019年に第20回TAMA NEW WAVEベスト女優賞（観客投票）を受賞した。

舞台「世界は一人」、NHK連続テレビ小説「エール」、ミュージカル「INTO THE WOODS」、大河ドラマ「どうする家康」、ドラマ「ACMA:GAME アクマゲーム」「海のはじまり」など多くの映画やドラマ等に出演しており、その型にハマることのない演技力は専門家からも高い評価を得ている。濱口竜介監督の映画「偶然と想像」第一話「魔法(よりもっと不確か)」では主演を務め、2022年に第19回シネマ夢倶楽部推薦委員特別賞を受賞した。

CMにも多数出演しており、2024年にはサントリー伊右衛門の新イメージキャラクターに起用される等、近年目覚ましい活躍をみせている。

生まれ育った神奈川県が主な舞台となる作品に出演する機会も多く、着実に経験の幅を広げている。

[非公表]